第３回香取地区地域協議会　記録

１　日　　時　　令和６年２月２８日（水）　午後２時から午後４時まで
２　場　　所　　みんなの賑わい交流拠点コンパス　研修室
３　出 席 者　　１４名／１４名
４　概　　要

（１）第２回香取地区地域協議会の記録（案）について

委員に確認し、承認

（２）香取地区の県立高校の適正規模・適正配置について

【 座　長 】

第１、２回では、「地域協議会の趣旨」、「県立高校改革推進プラン及び第１次実施プログラム」、「香取地区の県立高校の現状と課題」について事務局から説明があり、それに基づき「香取地区の県立高校の在り方」について、委員の方々から様々な御意見をいただいた。今回のテーマについては、「望ましい学校規模について」、「地域連携協働校に繋がる地域からの支援について」の２点において議論する形でよろしいか。

（意見なし）

ではその形で議論していく。議論の前に千葉県知事と香取地区４市町長の意見交換会が２日に行われているようだが、どんな話がされたか御存じの方はいるか。

【 委　員 】

意見交換会に随行をした。各市町で地域づくりが行われているが、今後どのようなことをしたいかについて意見交換をした。４市町ともに成田空港の機能強化に伴う地域の活性化や地域未来投資促進法による物流拠点としての企業立地、千葉県と香取地区で取り組んでいる農産物サツマイモの生産支援のさらなる拡充、東庄町からは佐原病院が所在する地域で、安心して生み育てられるような同院の産科再開についてなどに関して要望や意見交換を行った。

千葉県としても成田空港の機能強化というのは、この地域での一番の課題であり、取り組んでいくべきことであるため、一緒になって協議をしていくという話であった。

【 座　長 】

承知した。また、多古高校の地元パン屋と協力した商品の開発を行ったとあるが、評判はいかがか。また、今後の計画はあったりするか。

【 委　員 】

今年の初めにイチゴスムージーの販売を道の駅で行った。テレビでも取り上げていただき、タレントが試飲するなど話題になった。また、農業クラブが大学主催の発表会に出場し、準優勝にあたる賞を受賞した。農業科の教員が農業クラブの役員の生徒と一緒になって熱心に活動しており、こういう運びとなった。

イチゴスムージーの企画後すぐに次の企画について考え、カボチャにしようと話が進んだ。協力していただいたパン屋は昼休みに学校でパンの販売をしてもらうなど、長年学校にも出入りしており、商品化についても快く承諾してくれた。また、道の駅での販売にあたっては多古町役場にも協力していただき、新聞記事だけでなくテレビのニュースでも取り上げられた。販売を２時間で設定したが、２時間経たずに完売した。先日も販売を行い、400 個のパンを１時間経たずに完売した。宣伝の効果もあり、非常に良い取組だと思う。生徒も地元の方に喜んでもらえるのであればと一生懸命取り組んでいる。こういった農業クラブの取組により、多古高校を盛り上げていきたい。

テレビのインタビューの中で生徒が「農業高校の価値をもっと上げていきたい」と答えてくれており、

誇りをもって取り組んでいる姿が非常に印象的である。生徒が集まらないのが心配であるが、生徒が主体的に色々とやっていることは、非常に良い取組だと思っている。

【 座　長 】

多古町役場にも関わっていただいたとのことで、良い評判になり継続的に続けていけたらより良い。生徒も注目されることで次も責任感を持って頑張れるという点でもいい効果がある。

道の駅の販売について多古町も協力したと話があったがいかがか。

【 委　員 】

先ほど話があったとおり、農業関係についてはアイデアを出し合い、学校独自の学習を進めていただいている。また、前回の協議会でも申し上げたとおり、町としても空港を核に発展を目指している。空港の開港以来、東側はなかなか発展していない現状があるが、現在進められている空港の機能強化や圏央道の開通、多古町を通る国道 296 号線に新たな IC ができる予定であり、この利点を生かした発展を求めている。道の駅の関わりや地域の個人商店も含め、多古高校との繋がりは町の発展を目指す上で欠かせないものである。

町は空港圏としての発展を求めていく中で、多古高校の必要性を感じている。今回議題であがるように、３クラスと縮小されている状況である。ただ、空港の機能強化はこれからで、従業員も大幅に増えていく中で、様々な業種が空港内にあり、空港に近い高校として特色ある新たな学校づくりが進められていくのであれば、東側の中心の高校になりうると思う。町も高校には金銭面も含めて支援している。県立高校のため、県全体のバランスはあるかもしれないが、町として支援できることはこれからも続けていく予定である。多古町の中学校から多古高校への進学率は３割程と高く、電車はないが限られた交通網の中で地元の高校に通えることや近隣の市町からはバス、オートバイ、自転車を使って通えるため、多古町の子どもだけではなく、高校までつながった教育で地元から優秀な人材を輩出したいというのが町の考えであり、高校にもそれを求めたい。

【 委　員 】

今の話を聞いて思い出したが、知事との意見交換の日の午後に開催された香取地域副市町長等意見交換会の中で多古高校の話題になった。生徒数が減少していることから、空港の機能強化が図られる中で従業員のなり手がいないことを踏まえて、そういった職業を学べるカリキュラムができないかという話があった。

【 座　長 】

多古町としても多古高校のことを念頭に置いていることが分かる。多古高校をうまく活用し、活性化することで町の発展と地域の発展を図っていきたいということである。

貴重な意見を頂戴した。地元の状況や高校の取組について知ることができた。

では、１つ目のテーマである「望ましい学校規模について」事務局から資料が出ているので、説明をお願いする。

《 事務局 》

資料１「香取地区に所在する県立高校の状況について」に基づき、募集学級数の推移や志願状況、地域連携協働校の内容について事務局より説明

【 座　長 】

事務局より説明をいただいた。この資料について質問はあるか。

（意見無し）

お聞きしたいが、資料の中学校卒業者数の推移について説明があったが、神崎町と多古町の減少率が他の市町に比べると低いかと思うが、何か政策等の関係等の要因があるのか。

《 事務局 》

事務局の方からは数値のみになり、具体的な政策が行われたかどうかというところまでは把握していない。

【 委　員 】

子育て支援策が拡充した効果ではないかと思う。また、新型コロナの関係で出産を控える等の影響はこの後に来ると予想されるため、５歳がピークで、これ以降の数値は減少しているのではないか。

【 委　員 】

町内の中でも住宅開発が進んでいる部分や子育て支援策が少しずつ実を結んでいると思う。出生率はなかなか上がらないが、転入していただける若者世代等の影響が少しずつ数値に出ていると予想される。

【 座　長 】

承知した。いずれにせよ４校の志願状況や香取地区の中学校卒業者数の推移を見ても厳しい状況である。第１回で説明があったと思うが、志願状況については茨城県からの進学も含まれるのか。

《 事務局 》

隣接県協定の関係から茨城県から進学することができる。佐原高校には 25％程、佐原白楊高校には15％程、小見川高校には２，３％程の生徒が進学している状況である。

【 座　長 】

進学者数の人数の割合に変化はないのか。

《 事務局 》

大幅な変化はないが、若干減少している。

【 座　長 】

そう考えると、適正規模に満たしていない学校は多古高校であるが、長期的に考えると香取地区のすべての学校でより厳しい状況になると予想される。1 学級 40 名という国の標準法の枠組みの中で考えた際に現在の学校規模が適切であるか、また、子どもたちにとって望ましい環境として、高校の最低限の規模はどの程度なのかなども含めて委員の方から御意見いただきたいがいかがか。

余りにも多すぎても教育が行き届かない面が出てくるし、少なくても社会性が育たない面もあると思う。おそらく委員の方は、生徒数が多い世代だと思うので、その時の経験を思い出していただきたい。また、教育に携わっている方やお子さんがいらっしゃる方はその状況も踏まえた上で、適正規模について御意見伺いたい。

【 委　員 】

公立高校に比べると私立高校の方が、生徒数が減ることに対して経営に影響するため、私立高校の場合は問題に直結する。生徒数が減ることは大変切実である。

【 委　員 】

１クラスの生徒数の観点から考えると、現在の義務教育では 35 名でも多いと感じる。小学校では１クラス 10 名前後の学校もある。多ければ切磋琢磨できるが、個に応じた丁寧な指導をするには限界がある。以前、25 名程の学級担任をした経験があるが、個人的には集団としてまとめやすく、やりやすかった。昨今、教員不足が叫ばれているが、学級経営も 30 名を超える生徒数では求められる技術や経験値も違うため、義務教育の観点からすれば 30 名弱が良いかと思う。かといって、10 数名だと社会性がつかないかというとそういうわけではないが、ある程度の集団の中で切磋琢磨することや、社会に出てからのことを考えると、落としどころとしては 30 名弱がバランスのとれた教育ができる環境になりやすいと思う。

【 委　員 】

多古高校は、現在３クラスでかつ定員の充足率が 2/3 を切っているが、学校は問題なく運営できている。かえって、生徒によく目が行き届いており、良い教育ができていると思う。40 人学級に関しては、現場では昔から多いと言われていることである。教員の配置についても、学級規模で配置されるため、

生徒が少ないからといって減るわけではない。欲を言えば、人数が多ければ部活動等も盛り上がるため良いとは思う。４～６学級となっている適正規模については、各クラス 40 名であれば３学級でも良いかと個人的には思う。

個人的な意見ではあるが、以前勤務していた学校では、生徒数が減ってもクラス数は減らなかった。学力に差がある生徒が入学し、その学校で求められる教育を提供しづらくなる。また、適正規模は致し方ないことだと思うが、勉強が苦手な生徒の多い学校の学級数を減らされると、そういった生徒の居場所がなくなってしまい良いことではない。生徒が集まる学校の学級数を減らさないではなく、割合に応じて減らしていく必要がある。

【 座　長 】

実際に働かれた経験から貴重な御意見を頂戴した。学級数の減らし方に関しても多方面から議論して決めていく必要があるとの御意見も頂戴した。話にも出てきたが、部活動や生徒会活動という観点からはどうか。

【 委　員 】

部活動について、多くの高校においては野球の連合チームが普通になってきている。バスケットボール等でも、他の学校とチームを作り、試合に出るなどの学校も増えてきている。部員が集まらないことは、どこの学校でも苦労していることだと思う。高校の部活動については、完全に外部に移行となるのは先の話だと思うが、入学したのに部活がないというのは避けたいと感じている。

生徒会活動については何とかなっている。また、農業クラブの委員についても人数が少なくても委員を選出できている。

【 委　員 】

本校の生徒数は非常に少なくなっており、中学校で欠席が多かった生徒も多いが、そういう生徒が生徒会や部活動の部長を務めるなど、色々な場面で活躍している。また、高校ではほとんど休まず生活している。すべてうまくいっているわけではなく、心の中で様々な葛藤をして生活していると思うが、教員が的確に把握し、支援してあげられるのであれば、人数が少ないことはある意味メリットな面ではないかと思う。また、人数が少ないからこそ、生徒の気持ちの変化に教員もクラスメイトも気が付き、声をかけられる。

運動部においては、団体競技に関しては厳しいが、卓球やバドミントンなどなら少人数でも問題なく活動できる。また、文化部に関しても少ない人数でも楽しく活動している。

【 座　長 】

人数が少ないからこそ、中学校ではうまくいかなかった生徒も立場が人を育てる環境にもなりえる。小規模校や少人数に対して、デメリットだけではなくメリットについても多くの意見を頂戴することができた。

続いて「地域連携協働校に繋がる地域からの支援について」議論したいと思う。事務局より、通学が著しく困難な地域、地元からの進学率が高い、地域との協力・支援を得つつ地域一体となった育成といったことが地域連携協働校の位置づけの基本的な考え方になるという話があった。地域からの協力・支援についてイメージが湧きづらい部分だと思うが、事務局より説明はあるか。

《 事務局 》

岩手県の住田高校では、町に唯一の高校への支援として、給食の無償提供や通学費の補助、英語外部検定の検定料の補助などを実施している。また、教育コーディネーターを配置し、まちづくりに関する学びの支援を行い、町と連携した取組を行っている。もう一つの取組の事例としては、神奈川県の山北高校では学校、行政、町民、企業等が参加するコンソーシアムを構築し、総合的な探究の時間の中でまちづくりや町の課題や魅力について学び、町と協力した魅力発信を行っている。地域との協力や支援に

ついて参考になる内容と考える。

【 座　長 】

事務局より、こうした町と一体となった協力や財政的な補助等が地域連携協働校の位置づけの参考になるとの説明があった。10 年、20 年後といった長期的な視点で考えた際に、地域を担う人材を地元でどう育成し、どう留めるかが重要になってくる。地域の実情にあった支援とはどのようなものなのか。また、地域連携協働校の在り方や香取地区での設置になどについても御意見いただきたい。

例えば、多古高校への地元からの進学率が３割程との発言もあったが、その数値は全体的に見たときには高いものなのか。また、通学が著しく困難な地域とは具体的な距離等はあるのか。

《 事務局 》

４学区から９学区の郡部の高校での地元からの進学率の平均値は約 12%となっている。このことから、多古高校については、非常に高いと考えることができる。また、通学が著しく困難な地域については、例えば最寄り駅から遠いことなどが挙げられる。

【 委　員 】

地域連携協働校の在り方については、まさに多古高校そのものだと感じる。地域連携協働校の考えとして「地域の協力・支援を得つつ地域と一体となり」とある。町としても、財政的な支援をしながら、高校と共に町の発展を考えており地域との連携も深い。また、「地域ならではの資源」についても、空港に隣接する地域にあたることから、地域ならではの資源とは成田空港だととらえることができると思う。そういう中で、より特色のある学習プログラムを作っていける高校であり、近隣の高校と連携した学習もできると思っている。

空港の機能強化については供用開始を目指しているのが令和 10 年、圏央道は令和７年に一部開通し令和８年に全区間開通の予定となっている。短期間で大きく発展することは考えられないため、これらの効果が町に伝わり、それにあわせて一つ一つ町や地域が発展していくことになると思う。

県立高校の配置については、千葉県全体で考えていただきたいが、香取地域については今年の受験を見ても佐原高校と佐原白楊高校への志願者が定員を超えている。佐原高校は進学を目指す生徒が多くいる。また、公務員の採用試験に佐原白楊高校の生徒が多く受験している。佐原白楊高校への進学を選んだ理由として、公務員に特化した授業が受けられるからと聞いたことがある。

子供たちは将来を見据えた中で高校を選択することは当然ある。空港という大きな資源を考えれば、香取地区の発展を踏まえた連携ができるような多古高校になってもらいたいし、県にもそういう高校づくりをしていただきたいと思っている。また、地域連携協働校というのが協議の１つとなっているが、多古高校はまさしくその１つになり得ると思う。

【 座　長 】

多古町の場合は、成田空港の新しい滑走路へのニーズや高速道路の関係から物流拠点に対しての魅力も将来的には考えられる。例えば、成田空港の職員へのニーズが高まった場合に、小・中学校や高校から見学のような支援や連携はできるのか。

【 委　員 】

成田空港への見学は小学校ですでに行っている。多古高校については、学校運営協議会の中で成田空港の職員の方を派遣していただき協議等をしている。また、近隣の市町については成田空港からの支援を受けている。

財政支援については後援会を通じて 150 万円の支援をしている。具体的な利用方法は決めていないため、例に挙がったような検定の補助なども学校と相談した上で可能かと考える。金額についても必要性が高まれば検討の余地もあるのではないかと考える。

空港については従業員が４万人から７万人に増えることが計画されており、その波及効果で町の就職

場所が増える。高校から直接就職することや大学進学等をしてから地元に戻り就職するなど、優秀な人材を輩出することは町としても狙いであり活性化にもなる。そういったことも含めて、財政的な支援や地域との連携を今後も強化していきたいと思う。

【 座　長 】

物流拠点や成田空港への就職と考えると、それに合わせた高校での学びがあればよりよいということか。

【 委　員 】

それぞれの学校で特化したものがあるとイメージもしやすい。多古高校にもあればよりよいと考える。

【 委　員 】

管内の小・中学校の様子を見させていただいている立場から話をすると、少人数の学校も多くある関係からか、香取地区の小・中学校の子どもたちは学校の中での存在感が高いと思う。地域人材としての役割を持っていることや大切にされていることもあり、のびのびとして安心して自分らしさが出せる子供たちや小・中学校が多い。全員というわけではないと思うが、自己肯定感も高いのではないかと感じている。

そういった中学生が進学先として高校を選ぶときに、中学生の視点になって考えると、香取地区の学校では難関大学への進学を目指す学校や、資格取得や知識をさらに獲得できる学校、就職を見据えた学びができる学校など、それぞれに特徴がある。ある程度目的を持っていれば高校を選ぶうえで良い地区だと思う。そのためにも、小・中学校で将来どんなことがしたいのか、どんな仕事に就きたいのかという将来を見据えたキャリア教育や地元の産業を生かした体験学習等を更に行っていく必要があると痛感した。

【 座　長 】

現状でも多様な学びに対応できる状況ではあるが、小・中学校も高校進学を見据えた学びが必要だという御意見をいただいた。また、20 年、30 年後を見据えた学びにも対応していく必要もある。

【 委　員 】

高校へ進学するにあたっては、通学するための交通手段が１つの大きな条件になる。多古高校への通学手段としてはバスが基本となると思う。多くの保護者が送り迎えをしていると聞くが、毎日のことであり相当な負担になる。また、地元からの進学であれば自転車で問題ないかもしれないが、近隣の市町からの通学となると自転車では厳しくなる。横芝光町からのバスの路線がなくなったと聞くが、そこから通おうとする子供たちの選択肢として多古高校が外れてしまう恐れがある。安易な発想ではあるが、多古町としてそういった路線や通学を補うようなコミュニティバスがあればよいと思う。

また、多古町は空港の機能強化からの発展が今後大きいため、普通科に関連したコースや特色のある学びを設置することで、多古高校に進学すれば空港関係の仕事に繋がるという道筋ができるのではないか。

【 委　員 】

多古高校に関しては、話に挙がっている空港関連はもちろん、農業関係についても人が集まってもらいたいと思う。香取地区では農業の学びは多古高校しかないため、多古高校の園芸科にも力を入れられれば良いと思う。本来、農業へのなり手が増え、自給率が上がることが良いはずだが、必要とされているのかという疑問に思う部分もある。農業を学ぶ環境を整えたところで、一般的に働くよりも稼げるイメージも沸かない。

【 座　長 】

千葉県は農業に関しても魅力がある。また、東京都の消費を大きく支えているのは千葉県である。香取地区は特に農業は大きな魅力であり売りでもあると思う。農業の担い手を育てる学校がないと途絶え

てしまう。

【 委　員 】

そういった意味でも、多古高校の園芸科は香取地区にとっては非常に重要である。ただ、農業はある程度大きい規模でやらないと成立しづらくなり難しい部分でもある。より重要性が高まると良いと思う。

【 委　員 】

香取地域や多古町において農業というのは切っても切れない。また、多古高校もなくてはならない存在だと日頃から感じている。香取地域としては、サツマイモについて輸出の方にも特に力をいれており、多古米にも力をいれているところである。現在、多古高校からそのまま就労する農家の息子さんもいれば、営農指導員になる方もいると聞いている。町や地元と連携した様々な取組を経験した上で、自分自身の適性を踏まえて興味を持った職業に就職することも考えられると思う。

また、半導体の分野で多くの雇用が見込まれており、専門的な技術を持った人材の育成を早急にやらなければならないというニュースがある。物流拠点や空港の機能強化の関わりにおいても、高校としてどのような専門的な学びが必要なのかを研究し、多古高校がなくてはならない存在になればと思う。

【 委　員 】

教育に関する専門の委員の方から意見を伺っていて、現場で教育をされている方や教育を受けている子供たちからの意見を聞くことも非常に大切だと思う。

また、全国的に見ても大廃業時代と言われる中で、香取地区においては厳しい人手不足や賃上げという現状があり、高齢の事業者が廃業を検討している。人口が減っている中で、どのように地域を回していくかということと高校の問題はリンクしていると思う。ここまでくると、その地域の課題を共同で解決していくことを目的としたコンソーシアムが必要になってくるのではないか。

我々もハローワークや行政との連携も始まっており、教育現場も含めた形で地域連携がよりできれば、良い知恵を出し合うことで一歩前に踏み出せるという思いがある。

【 座　長 】

１月からスタートした地域協議会も今回で最後となる。委員の方で議題について言い残したことなどはあるか。

【 委　員 】

適正規模・適正配置とは違う視点になるかもしれないが、高校生に「地元に残りたいか」や「地元に帰ってきたいか」というアンケートを行うと、「帰ってきたい」や「住み続けたい」という回答の割合が低い。地域をより知ってもらおうと、佐原白楊高校と協力してカリキュラムを組み、色々と取組を行った結果、若干ではあるがその割合が上がった。

確かに学校の適正配置も必要ではあるが、子どもたちは地域の宝であり、賑わいの創出にも非常に大切である。将来の地域を担う人材として、そのような観点の教育に力を入れていただきたい。また、その教育の中で、必要であれば地域も一体となって取り組んでいけたらと考えている。

【 座　長 】

他に意見はあるか。

（意見なし）

委員の皆様から貴重な御意見をいただくことができた。では、これまでの協議を踏まえた内容を整理したいと思う。

第１回では、県立高校改革推進プラン及び第１次実施プログラムについて、香取地区の県立高校の現状について事務局より説明があった、第２回では、香取地区の県立高校の在り方について御意見いただき、新たな学びの提案として、豊富な観光資源を活用した観光に関するコースや成田空港の機能強化とその周辺の物流に関連したロジスティクスに関するコースなどの御意見をいただいた。第３回では、香

取地区の県立高校４校の現状と人口減少を踏まえて適正規模・適正配置について御意見いただき、大勢の意見としては、小規模でもある程度であれば問題はないという御意見であった。また、多古高校についても、香取地区にとって重要性が大きいという各委員の方から御意見をいただくことができた。

（３）その他

【 座　長 】

続いて、議事（２）の「その他」に移る。この場において、何か議題があれば、提案をお願いする。

（意見なし）

以上で議事を終了する。全３回にわたり円滑な協議に御協力いただき感謝する。

では、進行を事務局にお返しする。